

カリキュラム・マップ（文学部 歴史地理学科）

【カリキュラム・マップの目的】

科目毎に、それを履修することにより『何ができるようになるか（到達目標）』を示します。  
 また、それらの到達目標が、学習・教育目標のどの項目と関連するのかが示します。  
 科目の到達目標と学習・教育目標の関連を明確にすることにより、カリキュラム全体を俯瞰し、自身の学習進捗具合を客観的に把握することができ、自らの主体的な学びに必要な科目選択が可能となります。

対象入学年度	2021年度以降入学生
対象学部学科	文学部 歴史地理学科

学習・教育目標	①問題を発見する力
	②調査をする力
	③資料・テキストを解釈する力
	④データを分析する力
	⑤創造し表現する力
	⑥コミュニケーションする力

「必修・選択区分」の※は、所属する専攻によって異なります。詳細は履修要項を参照してください。

■学習・教育目標との関連度合いを表しています。  
 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

区分	科目コード	科目名	必修・選択区分	配当年次	授業の到達目標	講義形態	使用言語にする	学習・教育目標との関連					
								①	②	③	④	⑤	⑥
学部共通科目		文学部総合研究	必修	1年次	文学部に属する諸学の研究の全体像を理解する。	講義	日本語のみ	◎	△	○	○	△	△
		卒業論文	必修	4年次	テーマ発掘力、調査力、資料の解釈・分析力、ものごとを自分なりに考え、新たなものを創造し、表現する力、また自分で導き出したものや創造したものを人前で発表する力、質問や批判に答え、他者と対話する力を養う。	卒業論文研究	日本語、英語、ドイツ語又はフランス語	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		入門講義（現代文化）	選択	1年次	事物に対する幅広い視野を持てる。積極的に議論に参加できる。	講義	日本語のみ	◎	○	○	○	○	○
		入門講義（社会学）	選択	1年次	1 社会学における基礎的な概念を理解する。 2 現実社会における問題を、社会学的視角から発見する。 3 以上をとらえて社会学的な思考法を身につける。	講義	日本語のみ	◎		○	○	○	○
		入門講義（心理学）	選択	1年次	心理学における代表的な知見を学習し理解する。	講義	日本語のみ	◎		◎	△		
		入門講義（歴史・地理学）	選択	1年次	歴史・地理学各分野の概要と基礎的な方法論を理解する。	講義	日本語のみ	◎		○	○		
		入門講義（日本語日本文学）	選択	1年次	日本語と日本文学に関する知的好奇心を喚起し、理解力と読解力の向上を目指す。	講義	日本語のみ	◎	○	◎	△	◎	○
		入門講義（欧米言語文化）	選択	1年次	欧米言語文化コースの各専攻の研究内容を理解する。	講義	日本語のみ	◎		◎			
		入門演習（東アジア文化）	選択	1年次	東アジアの文化を学ぶという観点から、ディシプリンの中核となる発想法や概念を習得し、併せてテキスト読解、文書作成、プレゼンテーション能力の基盤を培う。	演習	日本語のみ	◎	○	◎	○	◎	◎
		入門演習（哲学）	選択	1年次	哲学を学ぶという観点から、ディシプリンの中核となる発想法や概念を習得し、併せてテキスト読解、文書作成、プレゼンテーション能力の基盤を培う。	演習	日本語のみ	◎	○	◎	○	◎	◎
		入門演習（図書館情報学）	選択	1年次	図書館情報学を学ぶという観点から、ディシプリンの中核となる発想法や概念を習得し、併せてテキスト読解、文書作成、プレゼンテーション能力の基盤を培う。	演習	日本語のみ	◎	○	◎	○	◎	◎
		入門演習（メディア芸術）	選択	1年次	メディア芸術を学ぶという観点から、ディシプリンの中核となる発想法や概念を習得し、併せてテキスト読解、文書作成、プレゼンテーション能力の基盤を培う。	演習	日本語のみ	◎	○	◎	○	◎	◎
		入門演習（社会学）	選択	1年次	1. 問題発見力を習得できる。 2. 論理的思考力を習得できる。 3. 口頭・文章表現力を習得できる。 4. コミュニケーション力を習得できる。	演習	日本語のみ	◎		○	○	○	◎
		入門演習（心理学）	選択	1年次	心理学への関心と理解を深める。	演習	日本語のみ	◎	◎	○	◎	◎	○
		入門演習（日本史学）	選択	1年次	日本史学に関する基礎的な調査能力、文献や資料の読解能力を身につける。	演習	日本語のみ	○	○	◎	○	○	△
	入門演習（世界史学）	選択	1年次	外国史に関する基礎的な調査能力、文献や資料の読解能力を身につける。	演習	日本語のみ	○	○	◎	○	○	△	

カリキュラム・マップ（文学部 歴史地理学科）

【カリキュラム・マップの目的】

科目毎に、それを履修することにより『何ができるようになるか（到達目標）』を示します。  
 また、それらの到達目標が、学習・教育目標のどの項目と関連するのかが示します。  
 科目の到達目標と学習・教育目標の関連を明確にすることにより、カリキュラム全体を俯瞰し、自身の学習進捗具合を客観的に把握することができ、自らの主体的な学びに必要な科目選択が可能となります。

対象入学年度	2021年度以降入学生
対象学部学科	文学部 歴史地理学科

学習・教育目標	①問題を発見する力
	②調査をする力
	③資料・テキストを解釈する力
	④データを分析する力
	⑤創造し表現する力
	⑥コミュニケーションする力

「必修・選択区分」の※は、所属する専攻によって異なります。詳細は履修要項を参照してください。

■学習・教育目標との関連度合いを表しています。  
 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

区分	科目コード	科目名	必修・選択区分	配当年次	授業の到達目標	講義形態	使用言語にする	学習・教育目標との関連					
								①	②	③	④	⑤	⑥
		入門演習（地理学）	選択	1年次	地理学に関する基礎的な調査能力、文献や資料の読解能力を身につける。	演習	日本語のみ	○	○	◎	○	○	△
		入門演習（日本語日本文学）	選択	1年次	日本語学・日本文学に関する基礎的な調査能力、文献や資料の読解能力を身につける。	演習	日本語のみ	◎	△	◎	△	○	◎
		入門演習（欧米言語文化）	選択	1年次	欧米言語文化コースの各専攻の研究方法を具体的な資料を使って実践する。	演習	日本語のみ	◎		◎			
演習科目		歴史・地理学演習Ⅰ	必修	2年次	歴史・地理学各分野における史資料・文献を読解する基礎的な能力を身につける。	演習	日本語のみ	◎	◎	◎	○	○	○
		歴史・地理学演習Ⅱ	必修	2年次	歴史・地理学各分野における史資料・文献を読解する基礎的な能力を高める。	演習	日本語のみ	◎	◎	◎	○	○	○
		歴史・地理学演習Ⅲ	必修	3年次	歴史・地理学各分野における史資料・文献を読解して、各種調査・報告を行う能力を身につける。	演習	日本語のみ	◎	◎	◎	○	○	○
		歴史・地理学演習Ⅳ	必修	3年次	歴史・地理学各分野における史資料・文献を読解して、各種調査・報告を行う能力を高める。	演習	日本語のみ	◎	◎	◎	○	○	○
		歴史・地理学演習Ⅴ	必修	4年次	歴史・地理学各分野で研究を進めるために必要な、史資料・文献の読解能力、調査・報告能力を習得する。	演習	日本語のみ	◎	◎	◎	○	◎	○
		歴史・地理学演習Ⅵ	必修	4年次	歴史・地理学各分野で研究を進めるために必要な、史資料・文献の読解能力、調査・報告能力を習得し、卒業論文作成のための力を身につける。	演習	日本語のみ	◎	◎	◎	○	◎	○
基幹科目		歴史・地理学特殊講義A	選択	2年次	日本古代史に関する個別具体的な研究を通して、その研究方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎	△	○	○	◎	
		歴史・地理学特殊講義B	選択	2年次	日本中世史に関する個別具体的な研究を通して、その研究方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎	△	○	○	◎	
		歴史・地理学特殊講義C	選択	2年次	日本近世・近現代史に関する個別具体的な研究を通して、その研究方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎	△	○	○	◎	
		歴史・地理学特殊講義D	選択	2年次	西洋史の具体的事例を通して、歴史研究の方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎		○	△	◎	
		歴史・地理学特殊講義E	選択	2年次	西洋史の具体的事例を通して、歴史研究の方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎		○	△	◎	
		歴史・地理学特殊講義F	選択	2年次	東洋史の具体的事例を通して、歴史研究の方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎		○	△	◎	
		歴史・地理学特殊講義G	選択	2年次	日本の自然・社会的な環境の生い立ちと地域特性を理解する。	講義	日本語のみ	◎		○	◎		
		歴史・地理学特殊講義H	選択	2年次	日本と世界の地域編成がさまざまな歴史や背景をもって成立してきたことを理解する。	講義	日本語のみ	◎		○	◎		
		日本史学講読A	必修※	2年次	日本古代史に関する各種文献・資料を読解し、分析・表現できるようにする。	講義	日本語のみ	△	○	◎	○	△	△

カリキュラム・マップ（文学部 歴史地理学科）

【カリキュラム・マップの目的】

科目毎に、それを履修することにより『何ができるようになるか（到達目標）』を示します。  
 また、それらの到達目標が、学習・教育目標のどの項目と関連するのかが示します。  
 科目の到達目標と学習・教育目標の関連を明確にすることにより、カリキュラム全体を俯瞰し、自身の学習進捗具合を客観的に把握することができ、自らの主体的な学びに必要な科目選択が可能となります。

対象入学年度	2021年度以降入学生
対象学部学科	文学部 歴史地理学科

学習・教育目標	①問題を発見する力
	②調査をする力
	③資料・テキストを解釈する力
	④データを分析する力
	⑤創造し表現する力
	⑥コミュニケーションする力

「必修・選択区分」の※は、所属する専攻によって異なります。詳細は履修要項を参照してください。

■学習・教育目標との関連度合いを表しています。  
 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

区分	科目コード	科目名	必修・選択区分	配当年次	授業の到達目標	講義形態	使用言語にする	学習・教育目標との関連					
								①	②	③	④	⑤	⑥
		日本史学講読B	必修※	2年次	日本中世史に関する各種文献・資料を読解し、分析・表現できるようにする。	講義	日本語のみ	△	○	◎	○	△	△
		日本史学講読C	必修※	2年次	日本近世・近現代史に関する各種文献・資料を読解し、分析・表現できるようにする。	講義	日本語のみ	△	○	◎	○	△	△
		世界史学講読I	必修※	2年次	外国史に関する各種文献を読解できるようにする。	講義	日本語のみ	△	○	◎		△	△
		世界史学講読II	必修※	2年次	外国史に関する各種文献・資料を読解し、分析・表現できるようにする。	講義	日本語のみ	△	○	◎	○	○	△
		世界史学講読III	必修※	3年次	欧米語や漢文の史資料を読解する能力を高める。	講義	日本語のみ	△	○	◎		△	
		世界史学講読IV	必修※	3年次	欧米語や漢文の史資料読解の応用力を身につける。	講義	日本語のみ	△	○	◎		△	
		地理学講読	必修※	2年次	テキストが記述する地理的諸事象を的確に理解し、それらの脈絡を把握する力を身につける。	講義	日本語のみ	○		◎	○		
		地理学フィールドワーク実習	必修※	2年次	地理学の調査技術を実習を通して習得する。	実習	日本語のみ	○	◎		△	○	◎
		地域分析	必修※	2年次	測量データ・地域統計のデータを収集し、それを地域情報システムを用いて分析する能力を身につける。	講義	日本語のみ		○	△	◎	◎	
		地図学	必修※	2年次	地図を深く理解し、多様な主題図表現力を身につける。	講義	日本語のみ			○		◎	○
展開科目		歴史学総論	選択	1年次	歴史学という学問の特質や、歴史研究の方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎		△	△	△	
		地理学総論	選択	1年次	地理学という学問の特質や、地域を地理学的に把握する方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	○		◎	◎		
		歴史学史	選択	2年次	歴史的な思考力を身につけ、物事を論理的、大局的に捉える力を養う。	講義	日本語のみ	◎		△	△	△	
		外国考古学I	選択	2年次	考古学資料の分析や解釈の方法を理解し、研究に反映させる思考を養う。	講義	日本語のみ	◎		△	△	○	
		外国考古学II	選択	2年次	さまざまな考古学的データの分析の実例を通じて、科学的な思考力を養い、論理的に考える力を身につける。	講義	日本語のみ	◎		△	△	○	
		歴史地理学	選択	2年次	世界の歴史的諸事象が展開する理由を地理学の視点から解釈する技術を身につける。	講義	日本語のみ	○		◎	○		
		自然地理学	選択	2年次	自身をとりまく自然環境を理解し、環境と人間の関わりと課題についての認識を深める。	講義	日本語のみ	◎		○	○		
		日本史史料学	選択	2年次	古文書などの文献史料についての理解を深め、歴史研究の手法を身につける。	講義	日本語のみ	◎	△	◎	○	○	

カリキュラム・マップ（文学部 歴史地理学科）

【カリキュラム・マップの目的】

科目毎に、それを履修することにより『何ができるようになるか（到達目標）』を示します。  
 また、それらの到達目標が、学習・教育目標のどの項目と関連するのかが示します。  
 科目の到達目標と学習・教育目標の関連を明確にすることにより、カリキュラム全体を俯瞰し、自身の学習進捗具合を客観的に把握することができ、自らの主体的な学びに必要な科目選択が可能となります。

対象入学年度	2021年度以降入学生
対象学部学科	文学部 歴史地理学科

学習・教育目標	①問題を発見する力
	②調査をする力
	③資料・テキストを解釈する力
	④データを分析する力
	⑤創造し表現する力
	⑥コミュニケーションする力

「必修・選択区分」の※は、所属する専攻によって異なります。詳細は履修要項を参照してください。 ■学習・教育目標との関連度合いを表しています。（◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連）

区分	科目コード	科目名	必修・選択区分	配当年次	授業の到達目標	講義形態	使用言語にする	学習・教育目標との関連						
								①	②	③	④	⑤	⑥	
		日本考古学Ⅰ	選択	2年次	日本における考古資料の特質と、考古学研究の方法について理解する。	講義	日本語のみ	◎		△	△	○		
		日本考古学Ⅱ	選択	2年次	日本における考古資料の特質と、考古学研究の方法についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎		△	△	○		
		日本文化史Ⅰ	選択	2年次	日本の文化にかかわる知識を習得し、文化的・歴史的思考能力を身につける。	講義	日本語のみ	◎		△	△	○		
		日本文化史Ⅱ	選択	2年次	日本の文化にかかわる知識を習得し、文化的・歴史的思考能力を高める。	講義	日本語のみ	◎		△	△	○		
		日本民俗学	選択	2年次	民俗学という学問の特質と、その歴史的展開や課題についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎		△	△	○		
		ヨーロッパ文明史Ⅰ	選択	2年次	ヨーロッパの歴史に関する基本的な知識を習得する。	講義	日本語のみ	◎		○	△			
		ヨーロッパ文明史Ⅱ	選択	2年次	ヨーロッパの歴史に関する基本的な知識を習得し、多角的な物の見方を養う。	講義	日本語のみ	◎		○	△			
		芸術史	選択	2年次	美術作品を通じて歴史的考察力を養う。	講義	日本語のみ	○	○	◎	○	◎	○	
関連科目		博物館概論	選択	2年次	博物館の歴史・種類・機能や、多様な博物館の実態についての理解を深める。	講義	日本語のみ	◎	△			○	○	
		教育方法論	選択	2年次	教育方法の原理を理解するとともに、学校教育における授業の編成方法、情報機器を活用した指導法を身につける。	講義	日本語のみ	◎			○	△		
		社会科・地歴科教育法	選択	2年次	社会科、とくに地理歴史分野に関する基礎的な指導法を身につけることができる。	講義	日本語のみ		△	◎		○	○	
		社会科・公民科教育法	選択	2年次	社会科、とくに公民分野に関する基礎的な指導法を身につけることができる。	講義	日本語のみ		△	◎		○	○	
		社会科教育法	選択	2年次	社会科に関する基礎的な指導法を身につけることができる。	講義	日本語のみ		△	◎		○	○	
他学部科目		G I S概論	選択	1年次	「地理空間情報高度活用社会」実現に向けて、それぞれの分野や地域において今後どのようにGISを活用していくか考えられるようになることを最終目標とする。	講義	日本語のみ	○		◎	○	△		
		まちづくりとデータ分析	選択	2年次	統計資料などの既存データやアンケートやヒヤリングなど現地調査によるオリジナルデータの集められるようになること、収集したデータの種類の即した処理・分析ができるようになること、得られた結果をどのようにまちづくりに生かしていくかについて考えられるようになることを最終到達目標とする。	講義	日本語のみ	○	△	○	◎	○	△	
		地域資源論	選択	3年次	「地理学」に関連する理論をもちいて、様々な地域資源の発見、活用を自分なりに理論立てて説明できるようにする。	講義	日本語のみ	◎		○		△		

カリキュラム・マップ（文学部 歴史地理学科）

【カリキュラム・マップの目的】

科目毎に、それを履修することにより『何ができるようになるか（到達目標）』を示します。  
 また、それらの到達目標が、学習・教育目標のどの項目と関連するのかが示します。  
 科目の到達目標と学習・教育目標の関連を明確にすることにより、カリキュラム全体を俯瞰し、自身の学習進捗具合を客観的に把握することができ、自らの主体的な学びに必要な科目選択が可能となります。

対象入学年度	2021年度以降入学生
対象学部学科	文学部 歴史地理学科

学習・教育目標	①問題を発見する力
	②調査をする力
	③資料・テキストを解釈する力
	④データを分析する力
	⑤創造し表現する力
	⑥コミュニケーションする力

「必修・選択区分」の※は、所属する専攻によって異なります。詳細は履修要項を参照してください。

■学習・教育目標との関連度合いを表しています。  
 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)

区分	科目コード	科目名	必修・選択区分	配当年次	授業の到達目標	講義形態	使用言語にする	学習・教育目標との関連					
								①	②	③	④	⑤	⑥
		英米の地域と文化	選択	2年次	英米の文化や歴史の基本的な概要を把握し、各国の観光スポットについて理解し、異文化への魅力を育成する。ツーリズムに必要な知識を英語で学ぶことで、旅行に必要な最低限の英語力も獲得する。また旅行プランの作成を通して、協調性、インターネット等を利用した情報収集・集約スキル、プレゼンテーション力を向上する。	講義	日本語のみ	△		△		○	◎
		多文化共生論	選択	3年次	外国人集住地域から学び、「多文化共生」を自分の地域に引き寄せて問題点の発見や解決方策について考察する。	講義	日本語のみ	◎		△		○	○